

議会広報広聴委員会記録

令和5年6月29日（木）
13時31分～14時43分
全員協議会室

- 【出席者】 三浦委員長、村武副委員長、
肥後委員、村木委員、大谷委員、沖田委員、川上委員、小川委員、
上野委員、川神委員
- 【議長団】 笹田議長
- 【事務局】 下間局長、村山書記、小寺主事
-

議題

- 1 陳情審査……………資料1
- (1) 陳情第85号 地域井戸端会は地元の人限定でいいのかという陳情について
- (2) その他
- 2 はまだ議会だよりminiについて……………資料2
- (1) 第23号掲載内容及び原稿担当
- (2) その他
- 3 地域井戸端会の反省について……………資料3-1、3-2、3-3
- (1) 地域井戸端会の反省
- (2) その他
- 4 第3回はまだ市民一日議会について……………資料4
- (1) チラシ及びルール確認
- (2) その他
- 5 その他……………資料5
- (1) ぎかいポストに寄せられた意見の回答

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[13 時 31 分 開議]

○三浦委員長

議会広報広聴委員会を始める。出席委員は10名で定足数に達している。本日の議題はその他を含め5項目となっている。

1 陳情審査

(1) 陳情第85号 地域井戸端会は地元の人限定でいいのかという陳情について

○三浦委員長

本日の議題3で地域井戸端会の反省については各位からご意見等をいただきたいと思っているが、それに係る部分の陳情という理解でいる。本陳情について賛否も含め振り返っていただきながら、この項目に係る部分についての意見と共に賛否の表明をしてほしい。なお、不採択という言葉が聞き取りにくいいため、賛成か反対か、または継続審査するかなどを発言いただければ。では各位から意見を求める。

○川上委員

陳情は書いてあるとおりで、このままでいいのか、情報共有を取られるかと書いてある。特段地元の人限定で良いかを議会として決めたわけではない。あとは現地の班長が判断すれば良かった。実際にこのようなことがあったようなので、それについては反省すべきは反省して。誰が来ても良いという形でやっているのだから、それでやれば良かった。私は「このままで良い」と思う。限定する必要はない。

○三浦委員長

陳情に対しては賛成か、反対か。

○川上委員

この陳情は「このままでいいのか」とある。このままとは、地元の方が地元のことからほかの者は駄目だと言った事例があったようで、ただし事実かどうか分からないし、たくさんあったわけではないし、だから現地の者が判断すれば良いのではないかというだけで。不採択。

○三浦委員長

反対ということか。

○川上委員

反対。

○三浦委員長

承知した。

○肥後委員

私も反対である。理由としては、私が行った会場で、最初聞いていたように地元の人限定でなくても良いということだったが、やはり地元の人からこのような意見がほかの会場でも出たというのは、私が見た限りでもやはり一方的に発言を繰り返したり、

地元にあまり深く関係ないことを一方的にしゃべることによって、アンケートでも一人の方が書かれていたが、場の空気と発言の機会を奪われたというようなことを私に言われ、その辺は反省しているので、本来は地元でない方もたくさん出てきてもらうのが本意ではあるが、この書き方で見ると逆にそういった深読みをしてしまい、地域住民の立場を考えると、地元の人以外は参加させないとか、意見を発言させないとかいう気持ちもすごく分かるので反対である。

○小川委員

私は参加される方のモラルの問題だと思っている。地元限定だとか限定でないとか、ルール化すること自体もなじまない問題ではないかと思っている。私が担当した5か所のうちの2か所にこの陳情者が来られたが、そのときにはご本人は、地元の方の発言が一とおりに出尽くしたところで「ほかになければ言わせてくれ」といった形だったので、その辺は配慮されていたもので、恐らくその会場のことを言っておられるのではないと、この陳情を見たときに思った。しかしやはり各会場では、ご意見を持った地元の方が発言機会を欲して参加されているので、できるだけそういう方々が優先的に発言する機会を保障するべきではないかと思うが、それをルール化したり見直ししたりといった対応を求められることの必要性については、必要ないということで、あくまでも参加される方のモラルで判断していただきたいということで、この陳情については反対である。

○上野委員

私も反対だが、地域井戸端会が終わった後に地元まちづくりセンターを回った。後になって開催される場所は早く開催されたところのことを知っているのので、いろいろ言われると地元の方が話をしにくい、そこで意見を言いにくいといったことがあり、そのまちづくりセンターの方がくぎを刺された。あれ以降は物を言いやすかったとも言っておられた。最初はかなり、地元の方が言われたことでも突っ込んで言われたようなことが1回あったような気がするし、そうすると今から地域の人もう行かないという方もおられたので、そういうことがあってはいけない。反対である。

○村木委員

私は賛成の立場で話をさせていただく。この事実のように聞いているということがあるが、実際私も行った会場で発言ができなかったというところが正直あった。やはりそのときに班長である私がある程度調節しなければならなかったことは反省しているが、ある程度地元へ委ねたところも否定できない。そういった面からいつてこのままで良いのかという質問に対しては、やはりこのままではいけないと判断し、情報共有が足りなかったのかということで、その場で私自身が、この場では何人たりとも発言ができる、または必要があれば調整するような配慮をするべきだったと反省している。そういった面からも賛成ということで判断した。

○大谷委員

立場としては反対である。まずここに示されたことが事実かどうかの面があるが、地元では地元の話題に集中して議会に伝えたいという意向もあったように思う。そう

した各地域の実情があろうと思うので、その実情の中でより良い地域井戸端会にしていく過程の中でのことだと思う。その意味で、地域の思いを伝える場の中で発言機会を地元の人が確保したいという思いでのことだと思うので、致し方ないと思う。

議会としてこれについて論議することでもないとも思っているので、その意味で反対と申し上げた。

○川神委員

表題の捉え方で、すごくなまめかしいというか。この陳情に書かれているようなことを誰が言ったのか。議会がこういった話をしたわけではないし、参加者がこのようにしてほしいと言った、そのような意味だったのかと思っている。基本的にはエリアを超えて、いろいろな事情があって地元に行けない方が参加するのはとても良いことだと思っているし、浜田の中でどこかに参加しようという意思是尊重して。地元の方が言われる、地元に関係するような意見以外は少し控えてほしいと我々の班が言った先で言われた方いらっしゃるが、私は今のままで参加者を制限する必要は全然ないと思っている。したがって、これで良いのかをどちらの意味で考えれば良いのか分からない。こういった事実、限定するという話を肯定すればよいのかということ、それは違うだろうと。どちらかということ意味合いが微妙だが。いろいろなことを含めて議会はこれをとやかく言うこともないし、我々はフリーハンドできちんと望んでいるので、やっていることはやっている。良いのかと言われると、これに対しては反対という立場で良いかと思っている。

○沖田委員

28か所に大きく会場を広げたことで、より地元というものがピンポイントになり、こういう意見も当然出るものかと思っている。地元の人だからしゃべれるとか、地元以外だから帰れとか、これをルール化するのも少し違うと思うのでルール化は抜きとして、ただ、このままで良いのかという。これはかなりそのとおりでと思っている。地域井戸端会にしても広聴機能は果てしなくより良いものにしていくべきだと思っている。こういったものを一つの事例として今後の検討課題という意味で、この陳情は賛成で良いと思っている。

○村武副委員長

私が参加したところではあまり地域の方が、言ってほしくない思いはあったけれどはっきりと発言を避けてくれということにはなかった。しかしその地域の方たちは、自分たちの意見がなかなか言えなかったという方もいた。ある所では反対に、自分の地域外の事例や話を聞くことができ良かったという意見もあった。

この陳情に関しては、このままで良いのか、情報共有が足りないのかということろだが、事前にこういう場合はこうしたほうが良かったという、ルール決めがなかなか難しいと思うが、そういう協議があっても良かったのかなとは感じている。すごく難しいが私は賛成したい。

○三浦委員長

それでは採決したい。継続審査を望まれる方はおられるか。

(「なし」という声あり)

では、本陳情について採択とするものと決することに賛成の方の挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

挙手少数により、本陳情は採択としないものと決した。以上で陳情審査を終了する。

2 はまだ議会だよりminiについて

(1) 第23号掲載内容及び原稿担当

○三浦委員長

村山書記から説明をお願いします。

○村山書記

(以下、資料を基に説明)

○三浦委員長

では順を追って決めていきたい。2項目だが皆から提案があるか。7月1日号は一つが議選監査についての勉強会を行ったという特別委員会の報告と、もう一つが産業建設委員会の意見交換会についてだった。ほかの委員会等でも活動されていると思うので、どなたかご提案いただきたい。

○川上委員

7月中頃にまた意見交換会があるので、ほかがなければ書かせてほしい。

○三浦委員長

ほかの委員会はどうか。全く動いてないことはないと思うので、できるだけフレッシュな情報を。本誌との兼ね合いがあるが、今の活動の中でぜひ、進捗でも。福祉環境委員会はどうか。

○村武副委員長

間に合うことは間に合うか。

○三浦委員長

ぜひそれぞれの委員会活動を積極的に、報告に使っていただければと思う。

○村武副委員長

福祉環境委員会は25、26日で視察に行く。それに対して報告事項としてまとめられるか、委員の意見を含めた報告はなかなか難しいかもしれないが、こういった所へ視察に行ったという実情だけなら書けるとは感じている。

○村木委員

実際9月号も私が書くので、そのバランスもあるので、今回これについて私のほうで対応する。

○三浦委員長

総務文教委員会だが、ちょうど今議会に上程されている人権条例があり、総務文教委員会としては提言した後の条例なので、ぜひその条例がどうなったかという経緯を、時期的には採決が終わった後なので書いてはどうかと思うが。総務文教委員会の方々どうか。

○大谷委員

議会だよりの委員会レポートで想定はしているのだが、m i n iのほうが早いのか。

○三浦委員長

これは8月1日で、本紙は9月1日付なので、m i n iが2回出てから本紙になるので、産業建設委員会から積極的な執筆の挙手がある。もちろん産業建設委員会に書いてもらって良いのだが、ほかの委員会も動いているので、そこはバランスも取りながら。なければ産業建設委員会にお願いできるので、そこは皆の総意というか。福祉環境委員会はご担当いただけるとのことだったが、スケジュール的に大丈夫か。少し厳しいか。締切りを踏まえると本紙に回してもらって。

今回議会改革推進特別委員会がm i n iに書いたが、協働のまちづくり推進特別委員会はどうか。勉強会のことはどうか。

(「やろう」という声あり)

では協働のまちづくり推進特別委員会で担当を決めてもらって。もう一つはどうしよう、大谷委員、肥後委員からのご提案だったが本紙に回そうということなら産業建設委員会にもう一度m i n iをお願いしても良いし、もしくは総務文教委員会や福祉環境委員会でほかのことを書いても良いが。

○大谷委員

本紙は7月3日締め切りなのでそれを想定している。

○三浦委員長

では、提言もしているのでできるだけ本紙でボリューム感を持って伝えるということで。総務文教委員会の視察は来週なのでそれを書いて良いが。それを書こうか。

(「はい」という声あり)

では総務文教委員会の3人で担当を決めて。自らという方はおられるか。では2回連続で私が書こうか。皆忙しいとは思いますが、できるだけ分業しないと負担がどこかに掛かってしまうので、ぜひ積極的に分業の姿勢で委員会活動には望んでいただきたい。よろしく願います。

議員のつぶやきはどなたが担当してくれるか。

○沖田委員

国府の海に夏が来たということで、私がやろう。

○三浦委員長

では沖田委員に国府の海についてつぶやいていただこうと思う。ではm i n iは以上でよろしいか。

(「はい」という声あり)

(2) その他

○三浦委員長

その他何かあるか。

(「なし」という声あり)

3 地域井戸端会の反省について

(1) 地域井戸端会の反省

○三浦委員長

それぞれ班長をお務めいただき感謝する。いただいた意見を持ち帰ってもらい、各常任委員会にも振っているが、アンケートの集計表などを事務局で作成してもらっているの、その説明をまずいただけるか。

○小寺主事

(以下、資料を基に説明)

○三浦委員長

目を通してもらっていると思うが、こうしたアンケート結果等も踏まえて各委員から気づきと今後に向けての改善点等を含めて感想をいただきたい。

○川上委員

私は白砂・市木・美又・周布に行ったのだが、確かに6名程度の所もあったが、多い所は18名。本来なら5、6人ずつの3班分けを設定すると良いのだが、皆の顔を見ると、皆の意見を聞きたいとのことだったので、一つのものとして全部やった。ただし内容は三つに分けたが。皆、人が言うことを聞きたいようなので、ワークも良いが今後もそういう形でやったら良い。

それから事前にお願ひしたことについてはやはり多かった。申しわけないが周布と白砂については私から言ってないので、どうしてもこの程度になった。事前にお願ひした所についてはたくさんの方に集まっていた。やはり段取りが要と思う。

○肥後委員

一つゼロ人という残念なところもあったが、発展的な意見はありがたかったが、全体的には少し閉鎖的な考えが多いというのが率直な個人としての感想である。逆を言うなら、そのような考えだから人が少なくて余計に困るのではと思った。また、そのような意見を踏まえた上で、浜田市として発展していくためにはどうしていくかも、また逆の課題としてすごく重みを感じた。そのような中で、若い参加者が私が行った会場では一人しかいなかったのがすごく残念だった。今後周知の方法を含めてどのような新しい取組ができるか、自分でもしっかり考えていきたい。

○三浦委員長

今回は分散してやってみるのが初めての試みだったので、それに対してどうだったかという意見も添えてもらえるとうれしい。

○肥後委員

先ほどの陳情にも関わるのだが、地域外から来られた方はありがたかった。どうしても日時が合わず、自分の住んでいる地域の会場には行けなかったが、この日のこの時間なら行けた。地域外の議員が来て実際に話を聞いてくれたり。会場が増えたことによって多様な意見が聞けるのはありがたいし、また意見を積極的に忌憚なく発言してもらえたのはすごくありがたかった。

○小川委員

会場が増えた分、3人でそれぞれグループに分かれると進めながら記録もして能力の限界を超えているように感じた。しかし結果的には、今まで10か所程度でやっていたのと比べると非常に会場数は増えた。その分、今まで発言できなかった人が発言できる機会ができたような気がしている。今までと比べると28か所でできたほうが、市民の声を聞く機会という意味では、広聴機能の充実という意味ではすごく発展的な取組ではなかったかと思っている。今後もこの方向のほうが良いような気がしている。

○上野委員

今まで旭は1か所で四十数名ということがあった。何個グループに分かれてもあまりものを言えない方がかなりおられた気がする。そういった点では28か所、来られた方はほとんど発言して帰られたので良かったと思う。小川委員が言われたように記録やいろいろ見るのに3人では忙しい気がした。来られる方も少なかったのでまあまあだったが、6人くらいが限界の気がした。グループに分かれたのは1回だけだった。黒沢など活発な意見が出て良かった。

○村木委員

私も4か所行った。新規に増やした会場では参加者から直接言われたが、来やすくなったと。今までは金城だと雲城に集まることになっていたのでなかなか行きにくかったが、こうして各まちづくりセンターに来てもらえるなら。顔見知りグループなので話もしやすいと。良い環境で話ができたとのことだった。

内容的にも、二人のところから十数人のところまである。ワークを苦手とする地域もある。地区まちづくり委員会があるところは事前にまちづくりの会長などと、進行について話をしてきたが、皆の顔が見える形でやってほしいとのことで、結果的には4か所のうち1か所はワークにしたが、そのワークも地域の方々との関わりだったので結構活発に話ができたと思う。地元の議員も一緒に、オブザーバーという形で来ていただいた議員もいるが、やはりチームに入ってもらったほうが良かったという意見もあった。

○大谷委員

各地域に出向いて声を聞いた点は良かったと思う。ただ、当初の設定の各常任委員会の三つのテーマについてワークショップができたところが少なく、できたところは地元の方々同士の声聞きながらこちらもその輪に入りながら有益な話のできたので、できるならワークショップが構成できるような人数を集めるか、それなりの地域設定のほうが良いのかという気がする。

各班に議員3名だったが、これはやはり役割分担として対応しにくかった。せめて4、5人はいてくれると回答がしやすかったろうと思う。3人ではどうしても過去の経緯が少ないと回答し切れないところもあったので。経験のある方も入れた5人くらいいていただくとやりやすかった。

○川神委員

私は三隅・三保・国府・杵束に行った。杵束は大変残念なことに参加者がゼロだった。それに絡めてだが、どうもまちづくりセンターに行ったときに、館長も含め

て今日はいないと。大体そういう日に地域井戸端会を設定しても来るわけないだろうと。どちらにしても、もうお酒も入っているので大変申しわけないが、今度来る際にはしっかり地域行事ともすり合わせて来てほしいと反省した。

開催箇所を増やしたのは一定の効果があって良かった。協働のまちづくりというのが、まちづくりセンター等を中心にしてやっているの、それと連動させるのは非常に有意義だった。スタッフ3人でできなくはないがきつい。4人くらいいると少しゆとりがあるかと感じている。参加者は私はどなたが来ても良いと思うが、そこはリードする議員がどのように話を持っていくかに掛かっている。また、地元議員が必ず一人は来て話を聞いておいてほしいと2会場で言われた。オブザーバーで来られたところもあるが、その中に入ってしっかり聞いたり発言する人間がいてほしかったとの要望を受けている。進め方に関しては、我々の班はどここの会場も参加者は多くなかった。付せんにいろいろ書いてもらい、目の前にテーブルを置いてブロックを分けて貼っていき、それを順番にこちらが読み上げ、書いた人に思いを言ってもらう。それを全体で協議するといった方式になった。それが非常に円滑で、最初からこうすれば良かったと思った。このようにグルーピングしながらやることによって良い結果が出ると痛感した。議員と参加者のキャッチボールができた。

時間は妥当だったと思うが、熱が入るともう少し延長してくれという声もあった。しかしある程度時間を切らないといけない。総じて一つの新たな試みとすると、一定の効果はあったと思っている。

○沖田委員

今回28か所に増やして、各会場確かに参加人数が少ないことは多かったと思うが、一人が長く話せたり、話しやすい雰囲気だったことで一定の効果は得られたのではないかと、アンケートの集計結果からも何となくうかがえる気がする。そういう意味ではある程度の成果はあった気はする。ただ年齢構成の偏りがすごい。地域単位で意見を聞いていくのも非常に大事だと思うが、やはり各委員会単位で職域との意見交換会なども連動していく必要がある気がする。というのが当委員会ですることの限度はやはりあると思うので。そこをプラスしていくべきかと個人的には思っている。

○村武副委員長

5か所行ったうちの3か所からは本当に良い意見が出て、活発な意見交換ができた。地域の方々は、よくここまで来てくれたとおっしゃった方もいらしたので、分散して良かったと思った。人数が少ない所もあったのだが、三つのテーマに分かれてやった所もあれば、人数が少ないから一つでやった所もあった。一つでやってしまうとどうしても、三つのうちの一つのテーマで盛り上がってしまい、結局ほかのテーマについて話ができなかった所もあったので、人数が少なくても三つに分かれて話をお聞きしたほうが良かったのかと後から感じた。

二反田集会所は、先に集会所代表の方と何度も連絡を取り合って伺ったのだが、一つには、周知が難しかったと感じた。まちづくりセンターなどはまちづくり関係者や地域住民が行かれてポスターを見る機会もあったかもしれないが、集会所の入り口に

ポスターは貼らせてもらったのだが、なかなか見る方も少なかったのか参加者は一人だけだったので、そこは周知方法か何か考えたほうが良かったかと思っている。

先ほど、地元議員に来てほしいという話が出たが、私も地元の浜田まちづくりセンターに行きたかったのだが、私が担当している地域井戸端会の日とバッティングしており結局行けなかった。そこは私自身残念に思った。そこが調整できるかは分からないが、そこも考えたらどうかと思った。

○三浦委員長

私自身の感想も含めてなのだが、やはり若者の参加が全体的に少ないというのは、引き続きそういったところに参加を促したり、こういった情報を呼び掛けたりする方法については検討していかないといけないのかと思っている。今回も会場には1か所配慮して、すすすくでの開催を実施しているが、そういった場所、開催時間なども改めて、今回やってみてどうだったのかは次回に向けてしっかり振り返る必要があると思っている。

アンケートの中にテーマ設定について若干意見があったかと思う。テーマ設定がざっくりし過ぎて議論しづらいという声はあったかと思う。こちらから投げかけたいテーマはあるが、もう少し議論が深まるような課題設定、問いかけが必要なのではないかと、アンケートから思った。

委員の感想を伺いながら、運営人員がやはりぎりぎりだったなど。議長が参加してくださっていたので写真撮影などご配慮いただいて助かった部分もあるが、3人で3グループを運営するとなると物理的に足りないところはあったかと少し感じた。これは改善しながらできるところもあるかもしれないし、いろいろまた検討すれば良い。ただ参加者数を見れば、トータルで前回比150%なので、もちろん会場数が4倍近くなっているのが必然的なのかと思うが、参加人員が1.5倍になっているのは議会側が動いた努力が数字に見えているところもあるかと思う。もちろんそれで十分とは思わないが、そういうところはしっかり成果と捉えて良いかと思う。

一つ一つの会場の参加者が少なくなった部分で、良い面悪い面両方あると思う。じっくり話ができ良かったという感想もいくつか見えるので、意見をしっかり述べられたという満足度は持ち帰っていただいた部分もあるかと思う。そうしたことも踏まえて総合的に判断し、来年度以降どういう形で活動ができるか、当委員会やほかの委員会と協議しながら進めていけたらと思っている。

地域井戸端会の反省についてはこれで置きたい。今日の委員会で皆から出た意見を、先ほどのように集約して、全議員にご協力いただいたことのお礼を担当委員会の委員長として述べさせていただこうと思う。事務局と相談して全員協議会の際にでも時間を取ってもらおうと思う。

(2) その他

○三浦委員長

ほかに皆から何かあるか。

(「なし」という声あり)

4 第3回はまだ市民一日議会について

(1) チラシ及びルール確認

○三浦委員長

チラシについては資料のとおりである。フォーマットは第2回のものと同様。日付等が変わっている。ルール等の大きな変更は今回していない。細かな決め事などここには載せてないのだったか。

○小寺主事

チラシには限界があるのでなるべくホームページに全てを載せようと考えている。第2回をやるに当たり発話がしにくい方や当日急ぎょ欠席した方の対応については、委員会内で整理させていただいたところがあるので、そのことは掲載しておいたほうが良いと考えている。ホームページにはなるべく全部載せるので、ホームページに載せたほうが良い点があればご指摘いただきたい。

○三浦委員長

ご意見があれば伺う。特段ないか。

(「なし」という声あり)

では、チラシはこのような形でご了解いただいたということで進めたい。必要な注意事項は、補足があればホームページでもしっかりうたい、分かりやすいルール等の下でご参加いただけるよう注意を払いたい。

○大谷委員

この委員会での反省のときに、本人確認の必要性があるのではないかと提案したが、この点はどうなったか。

○三浦委員長

どうだったか。

○小寺主事

昨年の反省点について資料を配信した。本人確認については、小さい子などが想定されるが、例えばマイナンバーカードを持ってくるように言うのもどうかと。大谷委員が言われたように発言案内状のようなものを事前に送って持ってきてもらうことはできるかと考えている。それをもって本人確認と言えるかどうかは何とも言えない部分はあるかもしれないが、そういった対応はできると思う。ほかに案があればぜひ伺いたい。

○大谷委員

常識的なこと以外の出来事が出ないとも限らないので、後で困らないためにはそれなりの準備が要するという意味で本人確認のことを言った。万が一そういうことがあってはいろいろな方面からいろいろ言われると思うので、一応大事なことだと思うので、何らかの方法で確認が取れることはしておいたほうがよいと念押ししておく。

○三浦委員長

受理したときにあらかじめ発言案内状を送り、それを当日持ってきていただくというのは大谷委員からのアイデアだったと思う。何かしらそういう形で対応する。細かくここで決めておく必要があるか。発言者に文書を送る際に、発言案内状のようなものを送り、それを持ってきていただいて本人確認とさせていただくなど、念のためという感じにはなると思うが、そういったことをするというので進めたい。そこは事務局と具体的に詰めたいと思うので、こちらにお任せいただければ。ほかにルール上で皆から何かあるか。

○村武副委員長

チラシの中で新型コロナウイルス感染症についての記載が一番下にあるが、これが必要なかどうか、皆の意見はどうか。

○三浦委員長

今は行政のチラシや案内はどうなっているか。5類になってからも入れているか、5類になってからは特段入れてないか。そこも、浜田市主催のイベント等でどうご案内しているかに沿う形で対応させていただいてよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそれもこちらにお任せいただく。今日のご用意していないがチラシを毎年、小学生にも参加してほしいということで、少し文章を変えたものを別途作成して案内している。そちらも前年度のものに沿う形でこちらで作成しようと思う。その点についてもご了解いただければと思う。

○大谷委員

小学生も6年生と1年生で全然違うが、小学生というくくりで良いか。

○三浦委員長

どうなのか。今までは1種類しか作ってない。

○大谷委員

主体的にその子の発言なら良いが、保護者の意向などの懸念なども若干なきにしもあらずという思いはしている。あまりにも年齢が小さいと、やらせになる可能性も当然あるので、そうなったものを見受けるようでは議会としていかがかと、心配な点を申し上げた。

○沖田委員

大谷委員の心配はごもっともかと思うが、では中学生なら大丈夫か、社会人はどうかと言い始めると、それはそれで難しいのではないかと思う。そこはあえて性善説で、子どもの純粋な意見ということで信じてあげたい。

○川上委員

私も沖田委員と同じ。疑ったら全部疑って掛からなければいけない。それはそれなりの意見として私どもが受け止めれば良い。

○大谷委員

当然思いたくはないわけだが、企画する以上企画趣旨に沿っていただけるような設定はしたほうが良いという意味合いでのことである。したがって、趣旨についてそれ

が評価できるレベルの発言趣意書のようなものは考えておいたほうがよろしかと思う。

○三浦委員長

発言趣意書とは。

○大谷委員

単に申込書が出るだけでなく、こういうことを発表したいというのが多分出てくると思うのだが。その内容が十分に出てくるよう、2、3行で終わらないような趣意書である。

○三浦委員長

今のフォーマットで発言趣旨は事前にいただくようになっているので、そこでどういったことを発言されたいかは受付時にきちんと確認はしている。何を伝えたいか分からない状態ではなく、その方が何を発言されたいかは受付時に、今のフォーマットの中で確認していく形で良いかと思う。

○大谷委員

そこを客観的に判断できるようにするためには、ある程度の説明量が出てくるような提示の仕方になっていけばと思う。

○三浦委員長

過去の申込み状況で、小学生もおられたが受付時に発言趣旨はしっかり書いて出してもらっていると私は認識しているが。事務局の所感はどうか。

○小寺主事

書かれていると思う。大谷委員の反省の中に「400字から800字」とあったと思うが、小学生だと200字くらいだったかと思う。内容は今まで出てきているもので分かるかと。字数制限がどうかというのは気にはなるところだが、今までは書いていただけているものと思っている。

○大谷委員

字数について前回一つ提案させてもらっているが、字数制限を設定することによってある程度、それに見合うだけの学年がある程度絞れると思ったので。何年生以上や何歳以上とできないなら、申込み段階である一定量をこなしていただけるだけの発言内容が欲しいという意味で設定させてもらっていた。これ以外の方法で何か対応ができるなら、それにはこだわらないが。議会での発言なので、そこにはそれなりの重みをお願いしたい気持ちがあったので。

○三浦委員長

申込み時に趣旨がしっかり分かるようにしていただくのは事務局で対応はしてもらい、もちろん当日発言いただくときに何を伝えたいのか分からない状態では、受け取る側も難しいので、そこはしっかり事務局でまずはチェックしていただく。

加えて、仮に低学年の方がこういった所でしゃべりたいという意味も、こういった形でそれが芽生えるか我々は分からないので、話してみたいのだという気持ちで出されてくるものについては、できるだけ受け取るスタンスでいて、かつその中で適宜趣旨が明らかなのかどうか、フォローも含めて事務局で対応していく。我々も含め。そ

ういう形でもよろしいのではないかと思うが、ご理解いただけるか。

○大谷委員

やはり議会としてのことなので、中継もされたりしたときに、それなりに多くの方が議会として対応できているという評価になるような内容にしたい。そのためにはある一定レベル以上の、皆からよくやっていると評価をいただけるような企画にしたい。それに対しては一定の枠を設定したほうが良い。細かなことは委員長中心に考えたいならその結果を待ちたい。

○三浦委員長

今、委員長の見解を求められるのであれば、私は今の提出方法やルールで問題ないと思っているし、出された時点で適宜事務局でも対応を、これまで過去1回目、2回目、できていると思う。議会としてはまだ市民一日議会（以下、市民一日議会）という場をどのような目的で持つのかという趣旨に立ち返れば、何歳であろうがこういった場で自分の思いを伝えたいということではできるだけ酌み取るほうが、議会の姿勢が伝わると思うので、そこはできるだけエントリーが多くなるようなスタンスで構えておくのが、今の趣旨からすれば、私はそれにのっとっていると思う。したがって、大谷委員がおっしゃるように、何を発言したいかがエントリー時点で適切に伝わっているかどうかは大事にする必要があると思うので、そこは事務局と我々とで精査させていただきたい。一旦ご理解いただいて、進めさせていただければと思う。

では市民一日議会はそのような形で進めさせていただいてもよろしいか。

（ 「異議なし」という声あり ）

(2) その他

○三浦委員長

その他、この件についてご意見等はあるか。

（ 「なし」という声あり ）

5 その他

(1) ぎかいポストに寄せられた意見の回答

○三浦委員長

村山書記から資料の説明があるか。

○村山書記

ぎかいポストに寄せられた意見の対応報告ということで、議会広報広聴委員会に該当するものになっている。内容は1件、記載されているものになる。また対応及び結果をまとめていきたい。

○三浦委員長

皆からこれについてご意見は。

○川上委員

確かにこういうことも必要かもしれないが、私としては、確かにご意見はごもっと

もだと思うが、今後ご意見に沿う形は検討しておきたい、くらいで置いていただければと思う。

○川神委員

川上委員と同じで、限定するときのメリット・デメリットもあるので、ここは十分検討すると同時に、旭のことが分かっている方ということで、地元のことが分かる議員、どなたか参加する場合そういったことも含めて検討していくという返答でよろしいのではと思う。

○上野委員

僕もできるだけ地元に行こうと思ったのだが、僕がいることでかえって言いにくい部分があるのではないかと思い、2か所行ったが3か所目は行けなかった。そのかわり終わった後に歩かせてもらっていろいろ意見を聞いたりした。

○三浦委員長

ほかになれば、川上委員、川神委員からいただいたご意見を基にこちらで参考案を作らせていただき、また皆に別途ご了解いただく流れで進めたい。

皆から何かあるか。

○村山書記

次の開催だが、7月21日金曜日の9時から開催できればと思うがいかがか。議会だよりの編集である。

○三浦委員長

改めての確認になるが、21日金曜日の9時から。大丈夫か。

(「はい」という声あり)

では21日の9時ということでよろしく願います。以上をもって議会広報広聴委員会を終わりたい。

[14 時 43 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 三浦大紀